【 142 】

氏名	佐 藤　　恭
学位(専攻分野)	博　士(医　学)
学位授与番号	博 乙 第　2617　号
学位授与の日付	平成 5 年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	**PIE症候群の病態に関する研究** **第1編　PIE症候群の肺局所細胞反応の検討** **第2編　PIE症候群におけるAspersillus抗原を中心とした免疫学的検討**
論文審査委員	教授　太田　善介　　教授　辻　　孝夫　　教授　中山　睿一

学位論文内容の要旨

【第1編要旨】

pulmonary infiltration with eosinophilia (PIE) 症候群について，bronchoalveolar lavage (BAL) 法により，肺局所細胞反応の検討を行った。PIE症候群のBAL液中にはリンパ球，好中球，好酸球，好塩基球／肥満細胞が各々増加していた。PIE症候群をCroftonの分類のprolonged PIEとPIE with asthmaと比較検討した。prolonged PIEでBAL液中好中球，好酸球比率はより高値であり，リンパ球比率ではPIE with asthmaがより高値であった。PIE症候群の原因別による比較では，真菌群でBAL液中リンパ球比率が増加しており，薬剤群及び不明群では好酸球比率がより高値であった。

【第2編要旨】

PIE症候群の中でAllergic bronchopulmonary aspergillosis (ABPA) について，Aspergillomaと比較しAspergillus抗原に対する免疫反応の検討を行った。I型アレルギーとしての特異的IgEはABPAには認められたが，Aspergillomaには認められなかった。III型アレルギーとしての沈降抗体や，IV型アレルギーとしてのリンパ球幼若反応の亢進は，ABPA及びAspergillomaの両方に認められた。またABPAにおいては臨床症状，末梢血好酸球増多，血清総IgE値は，リンパ球の反応性の程度と相関していた。

論文審査の結果の要旨

本研究はPIE症候群について肺局所細胞反応などの検討を行ったものである。PIE症候群は型によりBAL液中のリンパ球の比率が異なることや関与するアレルギーの型が異なることなどを明らかにした。これは価値ある業績であり，よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。